

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続特殊前兆 地殻大型地震の可能性推定前兆 続報

8/15±推定に対し 8/14に特異状態ピークが出現 現在が発生時期ではない

2008年07月から過去観測例中最長の7年以上も前兆が継続するNo.1778前兆群についての続報です。現在までに7段階の変化を示し、第7ステージは、それ以前の形態とは異なり、別形態の同一地震前兆も出現し、最終段階の可能性が示唆されていました。前兆変化(極大~終息等の時間変化)から、8月15日±1時期の可能性が計算されました。

8月15日±に発生となるか、新たな前兆出現が始まるか、または極大が観測されるか、注目されていました。継続する明確な地震前兆であるCH21特異は、ここ数日、正常基線に復帰しそうな状態を繰り返しながら、しかし、本日15日午後現在継続出現しています。従って、ここ数日内に対応地震発生の可能性は少々考えにくい状況です。

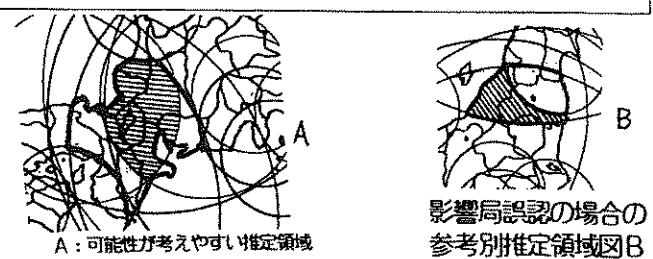
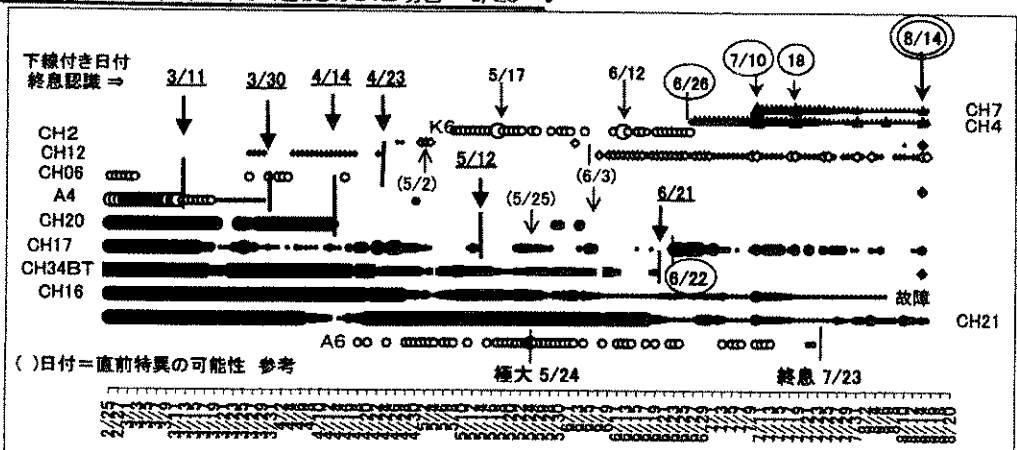
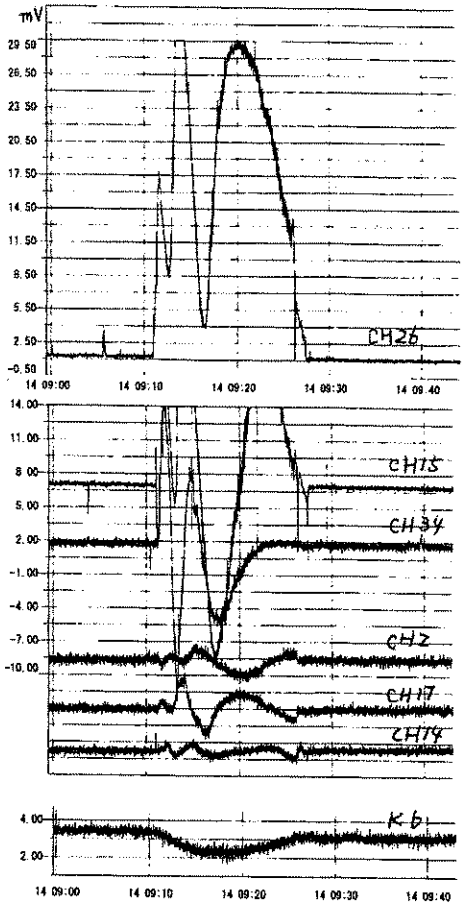
その中、8月14日に右掲載波形のとおり、CH26を中心として八ヶ岳の複数観測装置に時刻同期で特異変動が観測されました。CH26の波形のみを見ますと、S型火山前兆波形に酷似しています。S型火山前兆は火山帯から約50km程度内近傍での震源が浅い地殻地震(2014.9/3 栃木北部M5.1-7kmや2014.11/22長野北部M6.7-5kmがS型前兆対応地震)特有の前兆形態です。複数観測装置に同期出現します。但し、変動波形は基線に対し片側だけの変動です。右波形はCH26, K6 以外は基線に対し上下に変動が認められ、このような形態は特異状態波形と認識されます。但し、これだけ大きな変動値は過去にはありません。S型火山前兆の場合はCH26の変動面積から規模が推定できる経験則が成立しつつあります。ちなみに右上CH26の変動値からはM7.6±0.5相当規模が示唆されます。

S型火山前兆も特異状態変動も同様の原因で出現するのであれば、変動値は規模を示している可能性もあります。今回出現した観測装置はNo.1778関連前兆出現観測装置であり、出現時刻も推定発生時刻と一致しています。従ってNo.1778関連と認識されます。

いずれにしても、第7ステージの変化から推定された8月15日±1時期である8月14日に複数観測装置の特異状態(S型)が観測されたことは、現在が対応地震発生時期ではないことが示され、8月14日極大関連の変化から、発生時期を推定することとなります。従って、右下前兆出現図の○で囲んだ変化時期以外は、8月15日±を示す変化であったため、今後は無関係となります。考え易いのは、CH17特異初現6/22に対し、CH4,7 直接波近似のピーク7/15又は7/18(7/10-18がツインピークの場合=7/15)を極大認識した場合⇒8/26±又は9/4±、CH4の初現=6/26、8/18極大を使用した場合⇒9/29±。

が早い場合の考え易い変化からの推定発生時期となります。本日午後からCH2に特異状態出現中。今後の変化を観測し終息を確認する必要があります。また未確定ですが現状早い場合8月30±3の可能性が示唆される。長野北部地震はS型出現から、最初の前震までが15日、本震迄が19日で、参考にしますと8/29±~9/2±と同じ時期となります。火山帯にある程度近い可能性も考慮しますと、推定領域内でも岐阜、石川、福井領域の可能性も若干有。参考。発生が数ヶ月先と長引く根拠は出ておりません。変化があり次第続報させて戴きます。

- ◆推定領域=右A図(大枠=大線領域内・斜線=参考推定領域)
(影響局誤認の場合は少々考え難いがB領域の可能性有)
- ◆推定規模=M7.8±0.5 (M7.9を越える可能性考え難い)
- ◆推定時期=早い場合: 8月30日±3 ※今後の観測で修正有
※CH21特異、CH4,7 直接波近似変動終息を観測した後推定予定
- ◇推定地震種=震源が浅い地殻地震
- ◇推定発生時刻=午前9時±2 又は夕刻6時±2



C) Copyright 2015 YSBO 八ヶ岳南麓天文台

※CH21特異の変化を見続け、8/14特異が観測されたため、本日の情報配信となりました。遅くなりましたことお詫び申し上げます。